

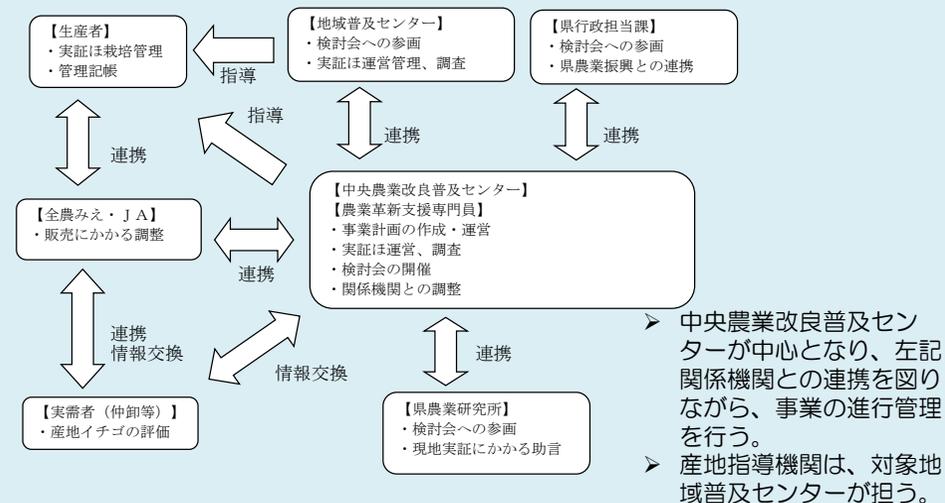
【全体概要】

イチゴ栽培における生産性向上に向け、主要病害虫であるうどんこ病及びスリップス類の対策として、新たなIPM技術の導入による生産安定技術の効果検証を行った。

新技術の概要

- ① **紫外線照射によるイチゴうどんこ病発病抑制技術（物理的防除）**
育苗期と本圃栽培期において、夜間に紫外線UV-Bライトを照射することで、イチゴうどんこ病の発生を抑制する。
- ② **天敵活用によるスリップス類防除技術（生物的防除）**
天敵（ククメリスカブリダニ）を活用することで、スリップス類の発生を抑制し、化学農薬の使用量削減を図る。
- ③ **天敵活用と高濃度炭酸ガス殺虫法との組み合わせによるスリップス類防除技術（生物的防除・物理的防除）**
天敵（ククメリスカブリダニ、アカメガシワクダアザミウマ）と高濃度炭酸ガス殺虫法を併用することで、スリップス類の発生を抑制し、化学農薬の使用量削減を図る。

実施体制図



主な取組内容

- 上記新技術に関して、県内10カ所（①は1カ所、②は7カ所、③は2カ所）に実証圃を設置し、効果の検証を行った。
- 実証内容について検討会を開催し、関係機関と技術の効果や課題を検討した。現地普及に向けた手引書を作成した。
- 県外視察を行うことで、先進事例の調査を行い、関係者間で情報を共有した。

実績と今後の展開

- ①の技術に関しては、育苗圃と本圃の両方でUV-Bライトを照射することにより、イチゴうどんこ病の発生を慣行防除区と同等に抑制することができた。ただし、UV-Bライトの照射が害虫を誘引することがあるため、防虫ネットの設置は必須である。
 - ②と③の技術に関しては、本圃での各種天敵の導入により、本圃栽培期間中のスリップス類の発生を抑えることができた。さらに、③の技術では、高濃度炭酸ガス処理により、育苗圃から本圃への害虫全般の持ち込みを抑えることができた。ただし、4月以降は屋外からのスリップス類の侵入が増えるため、適宜、化学合成農薬による防除に切り替える必要がある。
- 特に、①と③の技術に関しては、慣行防除と比べて防除に要する費用が高額となるため、病害虫の発生状況や経営を考慮した導入を支援していく必要がある。